

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2022年11月17日

学部・学科名 外国語学部・中国語学科

担当教員氏名 楊 紅雲

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	中国語学科夏期海外研修（インターンシップを含む）
3. 渡航先国名	中国
4. 派遣期間	2022年8月8日（月）～ 2022年8月19日（金） 12日間
5. 派遣先教育機関名	北京外国語大学
6. 参加学生数	11名
7. 派遣目的	オンラインによる語学研修および中国進出日系企業研修
8. 派遣内容	<p>2022年度の海外研修は、昨年（2021年度）と同様にオンライン形式で北京外国語大学の「語学研修」と日系企業の「企業研修」を行った。</p> <p>語学研修では「テンセント会議」のオンラインシステムを使って「中国語総合演習」（平日毎日、計10回）、「中国文化学習」（週2回、計4回）、「会話（少人数での会話学習）」（週3回、計6回）の3種類の授業が実施された。これらの授業はすべて北京外国語大学の講師もしくは大学院生が担当し、中国語のみで行われた。</p> <p>「企業研修」は、北京にある日系企業（キューピーとイオンの2社）による研修である。8月16日の午後にZoomを使って実施された。企業担当者から中国におけるビジネス展開の特色などを説明いただき、また工場・店舗の案内をいただいた。その後、学生たちはZoomの「ブレイクアウトルーム」の機能を使って学生同士でグループ討論を重ねた上、グループごとに企業の担当者に</p>

	質問をし、それに対する説明を受けた。
9. 成果	<p>2022年度海外研修の成果として以下の点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は中国や中国文化に対する関心を深め、本学での中国語学習により真剣に取り込むようになった。また研修期間中の授業はすべて中国語のみで行われたため、学生は理解することに苦戦していた部分もあったが、集中して受講する力とリスニング力を鍛えることができ、中国語力が確実に向上した。 ・担当教員はパワーポイントや動画、ドラマなどを有効に活用して、興味をそそる授業を展開したため、学生たちはオンライン授業であったにもかかわらず、中国語に対する理解を深め、実りある学習ができた。これは研修後に提出された学生レポートから見て取れた点である。 ・「会話（少人数での会話学習）」は現地の大学院生1人に本学学生2人という、3人1グループの形で行われた。この授業は、学生同士の交流の場にもなった。参加学生は友達感覚で現地大学院生に気軽に質問し、長時間の会話練習を重ねることができた。これによって会話に対する自信を付け、スピーキングの上達に繋がった。 ・「企業研修」は、前年度同様に好評を博した。学生たちは現地の日系企業（キューピーとイオン）について詳しい案内や説明を受け、中国市場に合わせた企業戦略やビジネスモデルを知ることができた。これを契機に、将来中国語を活かせる仕事に就きたいとの思いを強め、意欲的に就職活動に取り組もうと考える学生が増えたようである。
10. 備考	

以上

2022 年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：大橋礼雅

所属：中国語学科 2年次

私は今回の海外研修に参加し、以前よりも中国語を聞き取ることができ、発音も良くなったと感じました。まず、海外研修は 10 日間あり、毎日 1 時間目は北京外国語大学の先生が教科書に沿って授業をしてくださいました。毎回課題があり、教科書を読む練習や作文の練習を行いました。また、授業で文法や発音の違いを教えてくださいましたため、大変勉強になりました。

2 時間目は大学院生 1 人と生徒 2 人の PUT のような授業もしくは、先生が動画やスライドを使い、中国の文化を教えるといった授業を受けました。大学院生との授業では、生徒が 2 人のため、各々に使える時間が長く、発音や作文をより詳しく学ぶことができました。中国の文化を教える授業では、分かりやすいスライドや動画によって、中国の文化について知ることができました。

この他、キューピーとイオンの企業研修では、最初に企業の説明を受け、その後に質問タイムが設けられたので、自分がしたい質問ができました。そのため、実際に現地に行けずとも、自分が気になったことを質問でき、現地での企業としての工夫などを学ぶことができました。

今回、現地に行くことはできませんでしたが、オンラインでの研修を通じて、多くのことを学ぶことができたことで、非常に貴重な研修の機会になったと感じています。

2022 年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：加納綾夏

所属：中国語学科 2年次

今回の海外研修は、新型コロナの影響でオンライン形式となってしまったものの、北京外国語大学に所属する教授や大学院生の講義やグループトーク、さらに日本企業の海外支社で働く方々と交流することで、主に2つの部分で成長できたと思います。

一つは、中国語ネイティブスピーカーの話す速度について行けるようになりました。主に今回の集団授業を担当した先生は、スピードに慣れていない我々のために非常にゆっくり話してくださったため、聞き取りやすく全体の意味も理解しやすかったです。一方で、小グループの授業を担当した大学院生の先生は、話す速度が非常に早く、最初は理解に苦労しました。しかし、細かい意味を解説したり、発音を訂正してくださったおかげで、リスニング力だけでなく発音も良くなりました。

もう一つは、文化理解がより深まりました。2日に1度、大学院生の先生から伝統や文化の講義があり、その中で中国の伝統建築や漢服などについて学習しました。建築様式や服は日本との違いが大きく、多くの点で感動しました。また微信で食事の写真を送りあい、中国の食事と日本の食事の形式の違いに着目しました。

中国の食事は家族揃って食卓を囲んで食べるイメージが合いましたが、担当の大学院生はラーメンや火鍋、泡面などの一人用の食事の写真を送ってきていました。見た面は辛そうでしたが中国に行ったら食べてみたいと感じました。

最後に、この経験を活かして中国語関連の検定を受けつつ、SNS等を通じて文化を学習し、後悔しないように努力していきたいと思います。

2022 年度 中国語学科 夏期海外研修レポート

提出者：武藤そよか

所属：中国語学科 2年次

私にとって、二週間の海外研修は非常によい経験になりました。語学の授業では、全てが中国語で進むので理解することにはじめは苦戦をしました。しかし、先生が画像を見せてくれたり、わかりやすい中国語に言い換えたりしてくれたので、理解することができました。また、宿題が出たことも授業の復習や予習をする機会になりました。さらに、話す機会が多く、その中で発音などの指導を直接して下さったのでよかったです。

現地の大学院生1人と日本人学生2人による少人数の授業「語伴辅导」では、私たちが興味あることを聞いて、それをもとに授業をしてくれました。中国のドラマを見たり、若者の流行の場所や音楽を教えてくれたり、興味があることを教えてくれたので楽しかったです。少人数だったため中国語もたくさん話すことができました。これらの語学の授業を通してリスニング力や話す力がつきました。これらの研修は、大学の授業での中国語のリスニングや作文、PUTでの会話で活かすことができます。

文化の授業では中国の旧暦や衣服、建物について話を聞きました。これも全編中国語で理解をすることは大変でしたが、画像や動画でわかりやすく説明してくれたため、中国の文化について知り、日本の文化との違いを知ることができました。私は特に中国の衣服の歴史が面白かったです。

インターンシップではキューピーとイオンの方からお話を聞きました。どちらも日本の企業ですが中国では販売方法や売れる商品が異なり、日本と比べることができたことが興味深かったです。また、現地で働いている人から、中国のことについて知ることもできてよかったです。中国と日本の働き方の違いを知ることができたことは、就職活動にも役立つと思いました。

2週間の研修は忙しかったけれども、大学の授業ではできない経験をする事ができたので、とても有意義な研修となりました。